FFCテクノロジー
活 用現場レポート

水野 茂 様
（愛知県　愛西市）



　花を見ると誰もが優しい気持ちになり、心が癒されるのではないでしょうか。しかし、野菜や果物など口にする植物以上に多くの農薬を使って育てられることが少なくありません。そのような中、長年培われた土作りの技術にＦＦＣを活用し、完全無農薬でユリを育てられている水野様をご紹介いたします。

FFC実践現場

①水浸け





土がとても滑らかで
まるで足湯みたい

圃場にＦＦＣエースを反あたり１２袋撒布し１～４ヶ月ほど水浸けを行います。こうすることでよりＦＦＣの効果を引き出します。

②球根浸漬

ＦＦＣ導入以前、
ここだけは農薬を
使用していました



一晩寝かせたパイロゲン 1,000 倍希釈液に球根を１時間浸漬します。

③芽出し

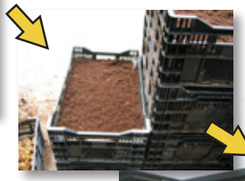
この 1,000 倍液は球根
浸漬に使ったモノ！
ムダなく活用します







約１ヶ月でこのように
芽と根が出てきます







パイロゲン 1,000 倍希釈液で水分調節した土を入れた箱に球根を並べます。これを約１ヶ月冷蔵庫に入れて芽出しをします。

④定植



エースの量は土の
状態を見て調節し
ます

畝ごとに生育が
ピシッと揃って
います

圃場に反あたり３袋程度のＦＦＣエースを球根のまわりに追加し、定植します。

⑤生育中



生長期の１ヶ月はパイロゲン 2,000 倍希釈液、その後出荷までは 1,000 倍希釈液を１週間に１度の間隔で葉面散布します。

⑥出荷



パイロゲンの 1,000 倍希釈液を水揚げさせてから出荷します。

FFC活用後の変化

- 花の色が鮮やかになった
- 香りがまろやかになった
- 日持ちするようになった
- 全てのつぼみが咲くようになった
- 葉の表面のワックス力が強くなった

まめ知識

ユリの切花を長く楽しむには！？

- よく切れるはさみを使って、水切り（水の中で切る）をします
- 葉が水の中につからないようにします
- 気温が高い時期、日中は花瓶に氷を入れ水温を下げます

こだわり



水野 茂 様

「ＦＦＣは、基本の土作りをしてから活用することによって、より高い効果が見えてきます。植物の生長に欠かせない窒素にはアンモニア態窒素と硝酸態窒素があり、硝酸態窒素の状態で吸収されれば、カルシウムなどの微量要素も植物に吸収されやすくなるため、色つやが良く食味もよいものができます。良い状態の土にはもともとアンモニア態窒素を硝酸態窒素へと変える微生物が存在していますが、ＦＦＣを活用すれば土中の微生物のバランスを整えて、その力をさらに高めることができます。そして、微生物のバランスを整えるということは、悪い菌が突出して増殖するのを防ぎ、結果としてある程度の病気の発生を抑えることができます。

　このほかにもＦＦＣが土中で及ぼす効果はたくさんありますが、こうしてできた良い土は、良い作物を育ててくれます。そうすると、子供たちもすすんで手伝ってくれます。農薬や化学肥料を主体とし、どんどん土の状態を悪化させる農業にこれからの世代の人たちがはたして魅力を感じてくれるでしょうか。子や孫が魅力を感じ、すすんで継いでくれる、そんな豊かで健全な農業を続けていきたいです」とお話いただきました。

　一握りの土でさえ、大切に扱う水野様を見て、土作りに対する真剣さをあらためて感じました。こうして作られた土で育ったユリは、美しいのはもちろんとても上品な香りがします。紙面ではお伝えできないのがとても残念です。

編集：松岡

※ 記事に関する詳細はエフエフシー・ジャパンまでお問い合わせ下さい。